



活動報告を受けそれぞれの立場から地域課題の解決に向けたアイデアを考える参加者

町内の保健、医療、介護、福祉関係者を招き、飯南町地域ケアフォーラムを開催しました。

「ひと×地域 connect」をテーマに介護士、医師などが日頃の活動や事例を発表。姉妹病院である京丹後市立久美浜病院の理学療法士からも取組発表をいただきました。

第2部では「わっしょい志々会」が、地域の多様な関係者と連携して行う「声がけ訪問」などの活動を報告。参加者は地域課題解決に向け、人のつながりをどう活かすかを話し合いました。

多様な職種での情報共有や意見交換が、地域包括ケアの推進の基盤となっています。

飯南町地域 ケアフォーラム開催

11月29日(土)



飯南米試食では「いつも飯南米を買っています」と嬉しい声も(東京会場)

食や文化をきっかけに、まちのファンを増やすことを目的に、AKOMEYA TOKYO(神楽坂店(東京都))、広島駅ビル minanoa(広島市)で「飯南町収穫祭」を開催しました。

飯南米の試食や特産品の販売では、生産のこだわりやおいしさの秘訣を丁寧に説明。しめ縄飾りづくり体験は、まちの歴史や文化を知ってもらい、きっかけとなりました。

両会場とも1日目夜に、町出身者や縁のある人との交流を深める「だんだん祭」を開催。特産品を使った料理を囲みながら、まちについて語り合い、つながりを深めました。

まちの魅力に共感し、町外から飯南町を応援してくれる人々との関係が深まっています。

飯南町 収穫祭を開催

11月15日(土)・16日(日) 東京
12月6日(土)・7日(日) 広島



靴磨き職人 安部春輝さん、モデル みさとさん(いずれも町出身者)によるトークイベント(広島会場)



だんだん祭(東京会場)では飯南高校卒業生がクイズやワークショップを企画



しめ縄職人の技に感嘆の声が上がりました(東京会場)



川尻公民館

電源立地地域対策交付金を活用して、町有地の川尻公民館の敷地を整備しました。

この交付金は、発電用施設の設置に対する理解促進を目的に、水力発電などの発電施設がある市町村に対し交付され、公共施設の利便性向上や地域住民の福祉向上のために活用されます。

今後この交付金事業を活用し、地域の施設整備などを行います。

電源立地地域対策 交付金事業で 公共施設の敷地を整備

エコ米生産者大会・ うまい米コンテスト表彰式を開催

エコロジー米の生産拡大を目的とした「第16回飯南町エコロジー米生産者大会」を来島交流センターで開催しました。

東京農工大学 豊田剛己教授の飯南町の水稻調査に関する講演や、JAしまねからの、米穀情勢や飯南米の流通状況に関する情報提供が行われました。

今大会に合わせて、特別栽培米のブランド化と栽培技術の向上に役立てるため「第18回うまい米コンテスト表彰式」を開催。コンテストの受賞者は次の皆さんです。(敬称略)

●受賞者

【金賞】

株式会社ファーム木精(奥畑)

【銀賞】

山戸栄吉(角井)

【銅賞】

農事組合法人晴雲(花栗)



副町長から受賞者へ賞状が渡されました



飯南米普及に向け、多くの生産者が参加

11月27日(木)

新農業人フェア 出展

11月23日(日)

「新農業人フェア」が東京ビッグサイトで開催され、本町も相談ブースを出展しました。

国内最大級の就農イベントで、全国各地から自治体や農業法人などが出展。来場者は各ブースで就農支援制度や農業研修制度などについて相談していました。

本町は産地化を目指すパブリカによる就農や農林業定住研修制度を中心に説明し、移住検討者の獲得を図りました。

県外での移住相談や情報発信の機会を設け、移住促進や町外からの就農者誘致につながっています。



手厚い研修制度や就農支援施策について説明

レゴブロックを使った 研修会を開催

11月29日(土)

人材育成講座「レゴ®シリアスプレイ®」ワークショップを来島交流センターで開催しました。

このワークショップは、レゴブロックを使って、思いやビジョンを自分の言葉で相手に伝えるもの。「10年後の飯南町に残しておきたいこと」「10年後のために明日からできること」をテーマに、対話をしながら他者の価値観を尊重する視点を持つことを学びました。

この講座を通して、対話の重要性を実感し、地域活動や交流が積極的に生まれることを期待しています。



「普段あまり関わらない人の思いを聞けてよかった」との声も